

300シリーズマネージドスイッチでのTCP輻輳回避設定

目的

ネットワークノードの輻輳は、ノードの入力が出力よりも高い場合に発生します。送信側ノードがリモートノードの輻輳に気付くと、送信側はスロースタートアルゴリズムを使用します。スロースタートは、ノードの伝送レートを制御するために使用されるメカニズムです。このレートは、受信側からの確認応答のリターンレートによって決定されます。複数の送信側ノードがスロースタートアルゴリズムを使用すると、送信レートの同期する傾向があり、帯域幅の非効率的な使用につながります。この問題（TCPグローバル同期と呼ばれます）を回避するには、TCP輻輳回避が使用されます。TCP輻輳回避は、送信ウィンドウを半分に遅くします。これは、伝送レートが最適なペースで動作するように、スロースタートと組み合わせて使用されます。

この記事では、300シリーズマネージドスイッチでTCP輻輳回避を有効にする方法について説明します。

適用可能なデバイス

- SF/SG 300シリーズマネージドスイッチ

[Software Version]

- 1.3.0.62

TCP輻輳回避

ステップ 1 : Web設定ユーティリティにログインし、Quality of Service > General > TCP Congestion Avoidanceの順に選択します。「TCP輻輳回避」ページが開きます。

TCP Congestion Avoidance

TCP Congestion Avoidance: Enable

Apply

Cancel

TCP Congestion Avoidance

TCP Congestion Avoidance: Enable

Apply

Cancel

ステップ 2 : TCP Congestion AvoidanceフィールドでEnableチェックボックスにチェックマークを付けます。

ステップ 3 : [APPLY] をクリックします。Enable TCP Congestion Avoidanceウィンドウが表示されます。



TCP Congestion Avoidance increases network reliability, but it also increases network traffic. Continue only if you are sure it will improve overall network performance. For this change to be effective you must save the configuration and reboot the device. Are you sure you want to continue?

OK

Cancel

ステップ 4 : [OK] をクリックします。TCP輻輳回避がイネーブルになっている。

翻訳について

シスコは世界中のユーザにそれぞれの言語でサポート コンテンツを提供するために、機械と人による翻訳を組み合わせて、本ドキュメントを翻訳しています。ただし、最高度の機械翻訳であっても、専門家による翻訳のような正確性は確保されません。シスコは、これら翻訳の正確性について法的責任を負いません。原典である英語版（リンクからアクセス可能）もあわせて参照することを推奨します。